

平成25年6月26日

女性による起業と女性の就業の場の確保に関するケーススタディ

- ▶ 被災地において、女性が中心となって起業し、女性に就業の場を提供している4つのプロジェクトの過程について、ケーススタディとして、ヒアリングを行い、立上げから軌道に乗るまでの経緯や工夫等について、詳しく取りまとめました。

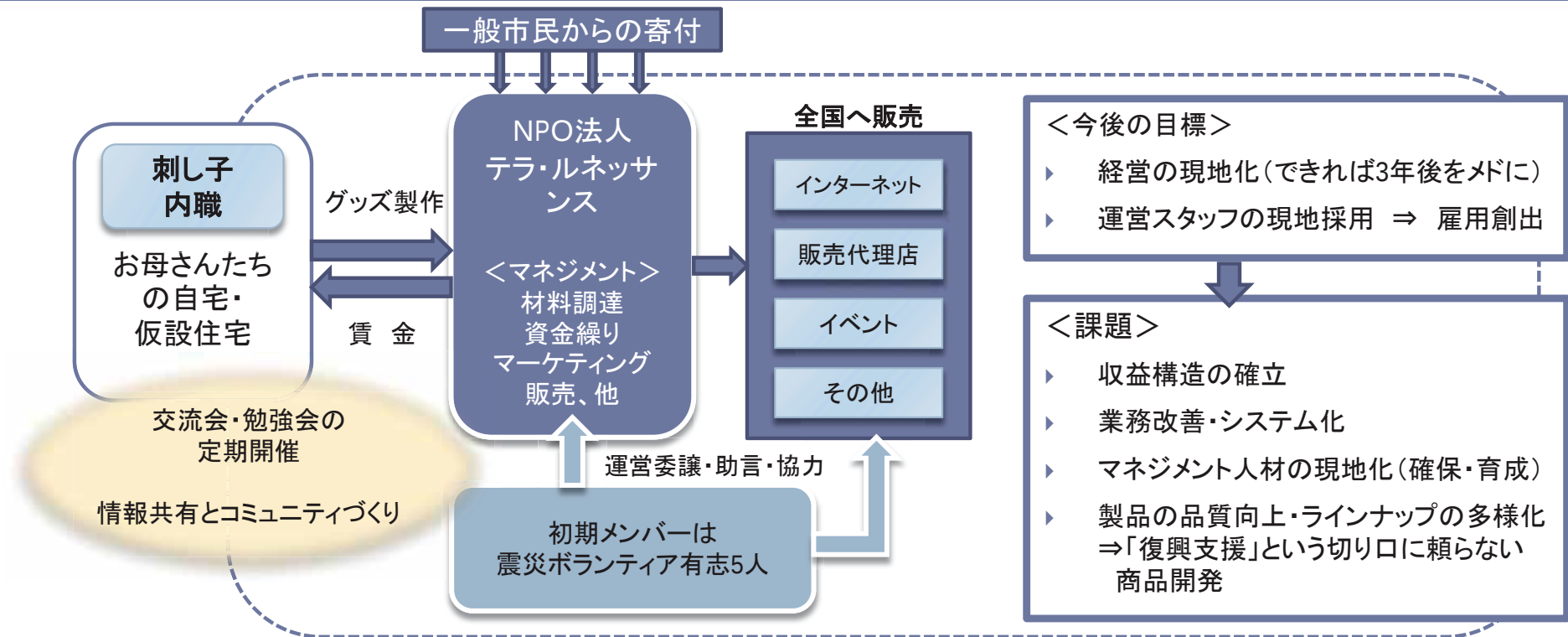
(1) 刺し子を通じた生きがいづくりから、継続雇用の仕組みづくりへ（大槌復興刺し子プロジェクト）

(2) お母さんたちによる「食と職の場づくり」で地域に活力（ぽっぽら食堂）

(3) 子育てママが女性の生活・就業支援のために起業チャレンジ

(4) ふるさとの食・農・文化で女性の生きがいと雇用を創出（かーちゃんのカ・プロジェクト）

(1) 大槌復興刺し子プロジェクト～生きがいづくりから継続雇用の仕組みづくりへ

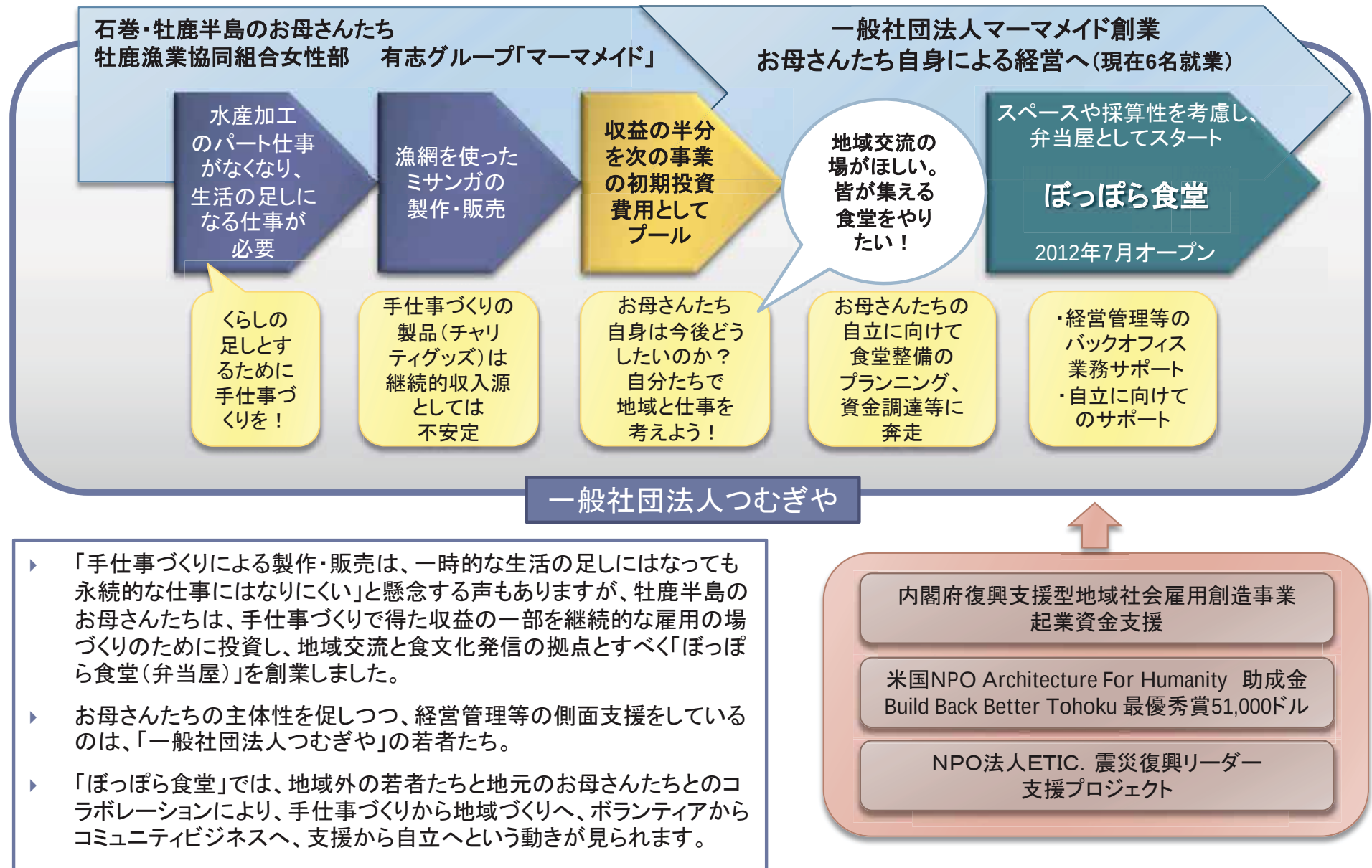


- ▶ 「大槌復興刺し子プロジェクト」は、震災直後、岩手県大槌町で支援活動をしていたメンバーを含む5人が、「いま、避難所では、『なににもやることがない』ことが問題だ」ということに気づき、大槌の女性たちに生きがいや働きがいを感じながら僅かでも収入になるような「仕事」を創ろうという思いから、2011年6月にスタートしました。
- ▶ 同プロジェクトは、発足から2ヶ月後には55人の刺し子さんに対価329,000円(商品618枚)を支払うまでになりましたが、有志5人のボランティア活動から継続・発展させるために支援事業等を専門とするNPO法人テラ・ルネッサンスに運営を委譲することとし、初期メンバーの協力の下、現在では同NPOにより、継続的な事業の仕組みの構築と将来的な現地法人化、雇用の創出を目指して事業展開されています。

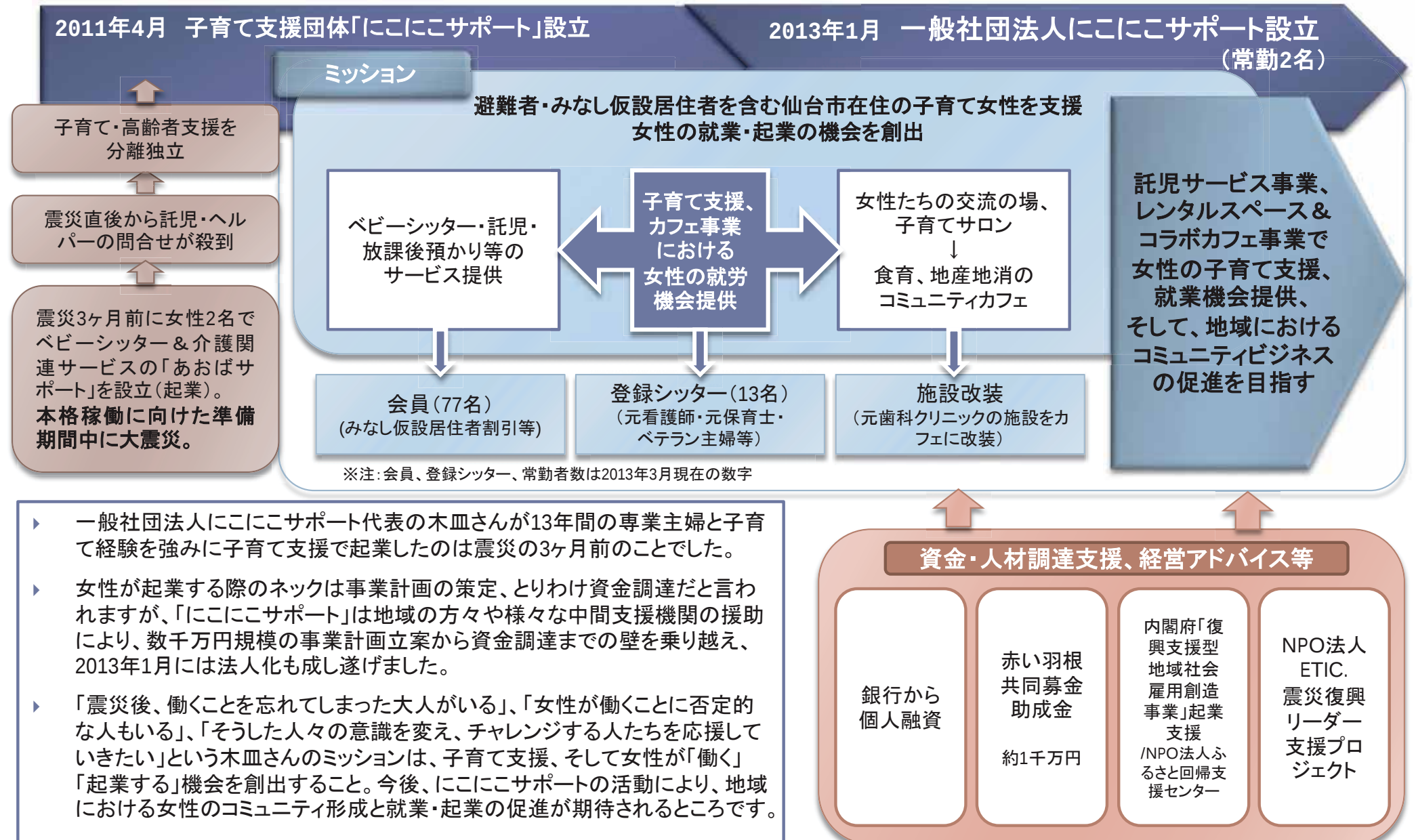
売上実績(累計)

集計日	販売枚数(枚)	売上高(万円)	刺し子人数(人)	刺し子収入(万円)
2011年12/31	4,436	391	156	368
2012年6/30	14,256	1,538	186	876
2012年12/31	21,958	2,646	187	1,073

(2) ぽっぽら食堂～お母さんたちによる「食と職の場づくり」で地域に活力



(3)にこにこサポート～子育てママが女性の生活・就業支援のために起業チャレンジ



(4) かーちゃんのカ・プロジェクト～ふるさとの食・農・文化で女性の生きがいと雇用を創出

福島大学・小規模自治体研究所(2009年7月～2014年2月)
大学研究者と県内11町村の長をメンバーとする期間限定研究組織。
震災以前から、飯舘村を始めとしたあぶくま地域の「地域づくり」などについて研究活動に取組み、自治体職員や住民たちとの交流があった。

かーちゃんたちと
大学研究者との
出会い
顔の見える関係

かーちゃんたちはどこにいるのだろう？
いま、どんな暮らしをしているのだろう？
かーちゃんたちを探しだして、
生きがいと働く場を創り出そう

飯舘村の地域文化・理念 ～自立自助・村民主体の村づくり

- 飯舘村では、第3次総合振興計画(1983年)以降、村の振興計画等において村民主体で取組むことを前提とし、所属や立場を超え、**多様な村民、特に若者や女性の参画**を推進。
- 村民発の研修事業「若妻の翼」は、役職者ではなく農家の**若い嫁たち**を**海外視察研修**に出す取組。(1989年から5年間で約100名派遣)。
⇒個人を束縛する家族から、個人を育てるための家族へ

第4次総合振興計画
策定推進委員会

市町村合併を考える
「村民企画会議」

農家の主婦
だった、
渡邊とみ子さん
の軌跡

1993年～
「地域づくり」への参加
・第4次総合計画地区
別計画策定推進委員
・村民企画会議委員

女性農業者の
活躍
農産品加工販売
農家レストラン等

女性リーダーを育む
飯舘村の地域文化

あぶくま地域の女性農業者・起業家のネットワーク

- 飯舘村、浪江町津島、葛尾村、田村市都路町、川内村の5町村から成る「あぶくまロマンチック街道構想推進協議会」を基盤とした女性たちの緩やかなネットワークの存在と日頃からの共同活動により構築されていた相互信頼関係とが現在の基礎力となっている。

2007年 起業

加工施設「までい工房・
美彩恋人(びさいれんと)」
の立ち上げ

地域の古い考え方等との
葛藤の中、仲間と事業推進
⇒「加工はしたいが資金は
出せない」仲間たち
⇒仲良しサークル感覚では
事業はできないという学び

2005年
イータテバイクじゃがいも
研究会発足
会長就任

オリジナルじゃがいも
「イータテバイク」、かぼ
ちゃ「いいたて雪っ娘」の
特産品化に向けて、品種
改良した飯舘村出身の
菅野元一氏と研究開始

2010年

これまでの努力が実
り、イータテバイク種
芋生産が国から認
可
2011年度産で採種
合格できれば、
ついに念願の本格
出荷という段階まで
こぎつけた

■しかし、震災・原
発事故による避難生
活により、農地、工
房の放置を余儀なく
される

震災・原発事故
避難生活

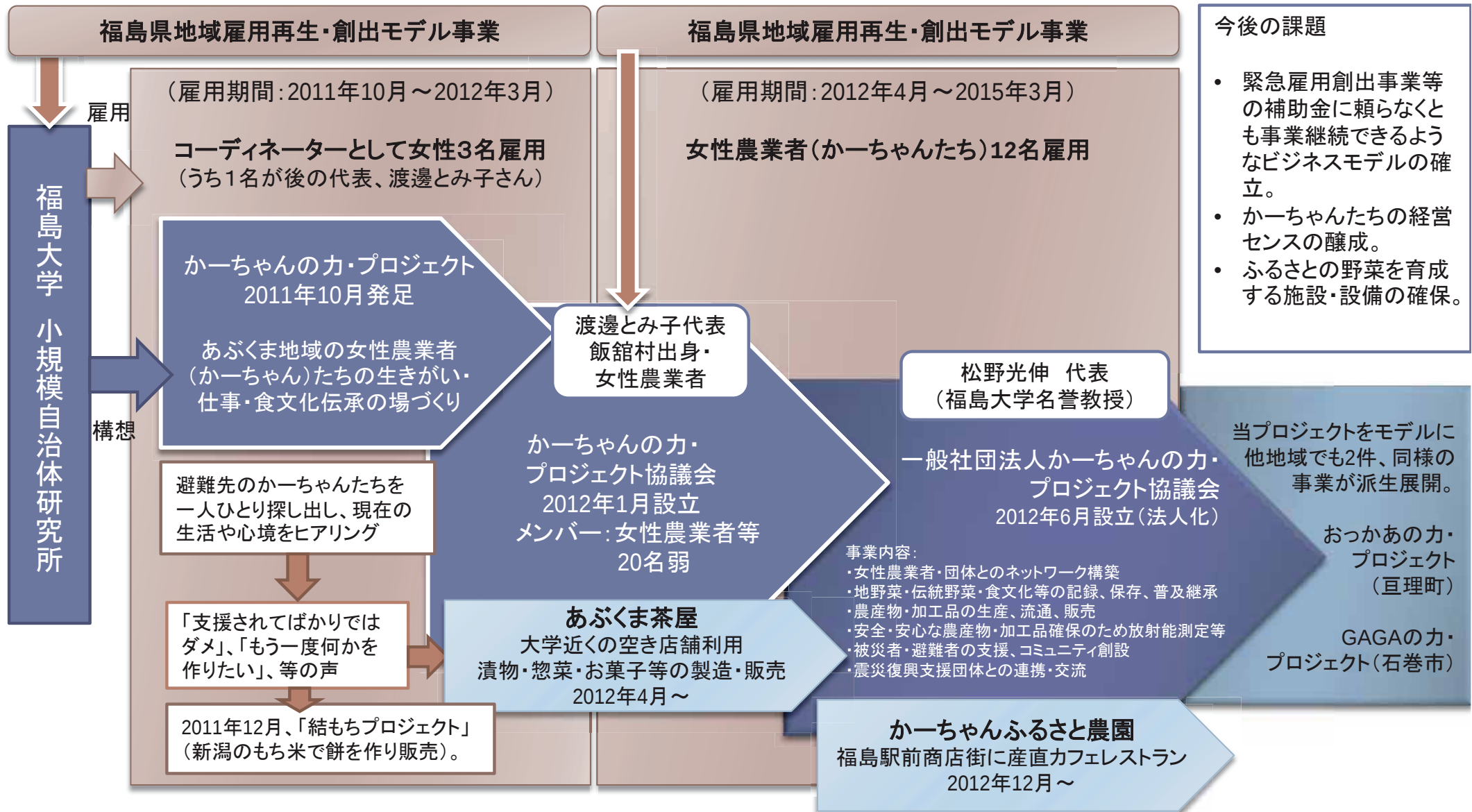
再会

福島大学教員の
発案による
「かーちゃんのカ・
プロジェクト」

2011年10月～
渡邊とみ子さんが福
島大学小規模自治
体研究所の契約職
員として、避難中
の「かーちゃんたち」を
一人ひとり訪ね歩く
仕事からスタート

＜次ページへ＞

(4) かーちゃんのカ・プロジェクト～ふるさと食・農・文化で女性の生きがいと雇用を創出



こんにちは!! 復興庁男女共同参画班です!!

ほかの地域では
どのような
取組があるの?

「男女共同参画」が重要な
のはわかったけれど、
具体的にどうしたらいいの?

復興庁があなたのまちへ うかがいます!!

まちづくりや仕事づくり、子育て支援、心身の健康の保持増進など、復興のさまざまな場面における男女共同参画の視点に基づいた取組について、復興庁の職員が基本的な考え方や具体的な取組事例などを、あなたのまちへお話しにうかがいます。被災地の住民の方や、支援者、自治体職員など、広く復興に携わるみなさまにご活用いただけます。詳しくは、復興庁男女共同参画班へお尋ねください。

こんな場面どうぞ!!

市民グループの勉強会、まちづくりを考える住民懇談会、自治体や企業の職員研修など



福島県、福島県男女共生センター主催の「市町村等男女共同参画新任担当者研修会」において、復興庁男女共同参画班の取組を紹介しました。

復興庁男女共同参画班

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-13
三会堂ビル 1 階

TEL : 03-5545-7404

FAX : 03-3589-1880

HP : <http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat10/sub-cat10-2/>

- 被災地は、人口減少や高齢化等、今の日本が抱える課題が顕著。
- このため、単に従前の状態に復旧するのではなく、復興を契機にこれらの課題を解決し、我が国や世界のモデルとなる「創造と可能性の地」としての「新しい東北」を創造。

検討経過

○本年3月から、復興推進委員会で、**5つの柱**を中心に、地域社会の将来像について検討。6月5日に「『新しい東北』の創造に向けて(中間とりまとめ)」を公表。(25年度末を目途に提言を取りまとめ予定。)

- ①元気で健やかな**子どもの成長**を見守る安心な社会
- ②「高齢者標準」による**活力ある超高齢**社会
- ③持続可能なエネルギー社会(**自律・分散型エネルギー**社会)
- ④頑健で高い回復力を持った**社会基盤(システム)**の導入で先進する社会
- ⑤高い発信力を持った**地域資源**を活用する社会

具体的な取組 (平成25年度は復興推進調整費で対応。平成26年度予算案には、約16億円を計上。)

○「新しい東北」先導モデル事業【平成25年10月4日に66件の事業を選定】

幅広い担い手(企業、大学、NPO等)による**先駆的な取組を加速**するための取組。(今年度は460件余りの応募。)

【例】次世代型地域包括ケア、地域課題に応じた津波防災訓練の開発、「旅館」ブランドの再構築、三陸ジオパークの観光資源化 等

○「WORK FOR 東北」(復興人材プラットフォーム構築事業)【平成25年10月から本格的に始動】

被災地が必要とする**人材を、企業等から現地に派遣**するための取組。被災地(派遣先)と被災地外(派遣元)の双方のニーズをマッチング。企業向け説明会や個人向けイベントの開催、情報を共有・発信するウェブサイトの構築。

○リバイブジャパンカップ(起業者への投資促進のためのプラットフォーム構築事業)【平成26年1月10日に受賞者を決定】

被災地の**振興を進める事業参加を促進**するための取組。ビジネスコンテストの過程で、専門家による事業化に向けたアドバイスを実施。入選した事業提案の展示会を開催し、事業パートナーの発掘等を側面的に支援。(今年度は約300件の応募。)

○「新しい東北」官民連携推進協議会【平成25年12月17日に協議会を設立／会員数550法人・団体】

復興に携わる**多様な主体(企業、大学、NPO等)の連携を推進**するため、これらの主体の取組に関する**情報の共有・交換**を進めるための取組。ウェブサイトや会員交流会等により、効果的に情報の共有・交換を行い、支援のマッチング、様々な主体間の連携、先進的な取組の横展開等のきっかけづくりの場を提供。